



# 志友会報

802-0985 北九州市小倉南区志井6丁目11-13  
（株）網武出版 093(962)7740 FAX093(961)8224  
Eメール: saigo@skyblue.ocn.ne.jp

本紙の年間購読は本体 3,000 円 + 税です。

## 合気語録

陽明学で言う致知

致知とは、先天的道徳知としての自己の良知を十分に發揮（致良知）し、それによって物事に正しく処する（格物）ことを目指す。これを格物致知と云い、陽明学の説くところの「知行合一」であり、「致知」の「知」を「良知」であるとし、知行行のものとあり、行は知の發現であるとするものである。すなわち知と行を同時一源のものであり、これを「致良知」という。

また習・離・破は「時間的な意味合い」を持ち、昔は師匠の有有限時間を計算してこの設定を決定したものである。だから、多くの修行者は「自分の若い時」に弟子を取り、弟子を通じて学んだことを、師匠に「一々確認」しながら、次の業を学び取っていったのである。

格物致知は「知行合一」によって新たな段階へと次元を進め、その次元の実践の中に、「致知」の「知」である「良知」が存在するのである。そしてその良知こそが、武術実践者には伝統武術と伝承武術の天地ほど異なる隔たりを作るのである。

秘術を伝統とする合気武術 巷間には「史上最強の格闘技」などの言葉が、美しやかに囁かれている。

また、徒手空拳・無手格闘技を世界最強と信じる格闘技観戦者も少なくない。

しかし、格闘技もそのルーツを辿れば、多くは日本の古武術から出発したものであり、凡そ人間が、肉体（肉体的素質や才能）を主に、精神（全人格的精神構造）を従いとして表現される武技格闘において、何故、優劣を一方的に序列して、試合興行中心の他方を「史上最強の格闘技」など豪語するのであるのか。不思議な限りである。

武技の持つ各々の特長は、個々の優劣ではなく、武技の技術体系に求めるべきだが、武術や武道を各々上げても異なりがあり、また試合場やルールの異なる各々の、異種の武技間に、一体どうやって優劣の序列を付け、史上最強という言葉で表現するのであるのか。

秘密裡に伝承されてきた特異な武術である。 一般に「合気」といえば合気道を連想し、合気道と大東流が同じ様なものとして扱われ、混同して認識される傾向にあるようだ。 しかし大東流は合気道の母体をなしたとはいえず、根本的に大きく異なっている。 喩えば、大東流で言う「一箇条」の儀法は、合気道の「一教」とは異なり、その技の性質も異なるものである。 また一本捕りを思わせる合気道の一教と、大東流の一箇条十儀法（西郷派大東流では一箇条を十儀法に分割し、これを「一條極め」と称する）とは、形質は非常に類似しているが、その儀法数と戦闘思想は根本的に異なるものである。

また例えは一箇条十儀法には、それぞれに当身が付随し、単に技を掛けるのではなく、敵がまさに吾が身に触れんとする瞬間、当身の連打を打ち据え、敵が戦意を失うまで何度も繰り返して打つことを、その戦闘思想の中核に置いている。こうした当身の連打を合気拳法と称するのである。 一般に拳法といえ、拳での殴り合いの格闘を想像するであろうが、大東流合気拳法には単に、拳を固めた突きや蹴りに合わせて、指を用いる「点穴術」という当身がある。 この点穴術は元来、人体の一番脆弱な部分を叩くため、競技としての試合に用いる事も出来ず、また護身術としても、最後の最後に控えたものとなり、武術の持つ、「武」の部分、防衛本能の発露と考えるか、あるいは闘争本能の現われとして考えるかで、この術に対する考え方は変わってくる。 つまり、ここが武術（古流の持つ秘伝）とスポーツ格闘技（競技武道を含めた）との分岐点であり、両者をここで隔てている。

そして古流武術といわれるものは、その多くに「秘伝」の部分が隠され、これが一般的には大衆の目前で公開されないが常であり、伝承という方式を辿りながら、一種独特の武術体系を構築した。そして長い歴史の、先達の経験や教訓が蓄積されて、特異な技術体系を形成している。 拳に三割程度に減ってしまい、その間、鉄砲の質的向上や性能は、十六世紀の乱世のレベル程度であった。こうした状況が幕末まで続き、大砲にしても、十六世紀のレベルの旧式品で、既に西洋では一般化していた、アームストロング砲（William George Armstrong / イギリスの工業家が発明した大砲。アームストロング砲は、大砲の他、回転式水力発動機や各種の水圧機などを発明。1850-1860年）には、到底太刀打ちできなかつた。 また、黒船の砲艦外交の際には、日本の旧式大砲では、全く飛距離が出ず、骨董品同様の代物であった。 更に、軍隊組織としての訓練を、この時代二百五十年以上も怠り、鉄砲隊における操作訓練や、集団的組織を司る戦闘訓練は皆無であり、最早、軍隊とは言い難いような、著しく退化した、レベルの低いものを担当していたのが武士階級であった。 こうした事から考えても、徳川封建時代と

そのそも武術における秘伝は、投げ技にしろ、当身技にしろ、力と力の物理的なぶつかり合いではなく、人体の仕組みを熟知して、最も脆弱な部分を攻めて、これを有効に利用したものである。 武術は「術」が生命であり、この術は秘伝であるからこそ、術として通用するのであって、これが大衆化され、あるいは試合興行において一般に公開されれば、広く流布され、それはもはや秘伝ではなくなり、術は最後の「切り札」としての資格を失う。 したがって術といわれるものは、秘伝にされ、隠されて当然であり、ここが武術と、スポーツ格闘技や競技武道との違いである。 そしてこの時代に、軍隊は存在しなかつた、と言えるであろう。そして「軍隊」を定義した場合、決定的な条件は「自己完結性」を所有しているか、否かにある。 自己完結性とは、一切の事を自分で出来、集団内部にあらゆる機能を内包している組織を言うのであり、これはかつての旧陸海軍と、今日の警察の違いに似ている。 例え、最前線に仮設営舎を設営するにも旧陸海軍は、工兵という専門の特殊技能を持った将兵が居て、彼等が野営する為の営舎を建てる。あるいは橋を架けたり、飛行場を作ったり、鉄道敷いたり、陣地建設にも当たる。ところが警察は、警察署自体にこうした専門職が無い為、その他の建築物も、その種の建築建設の専門家に頼んで建造物を建てる。また病院にしても、旧陸海軍は陸軍病院、海軍病院を持ち、野戦病院や病院船も持っていた。そしてそれを担当したのは、階級を持つ軍医や衛生兵・看護兵であった。更に通常の医科学とは異なる、銃創などの、特殊な戦場外科学を指導する為に、軍医学校であった。 しかし警察には、警察病院があるにはあるが、それを担当するのは警察官ではないし、軍医学校に匹敵する教育機関は持たない。また旧陸海軍には、各々に軍法廷を持ち、軍法会議を開廷出来る、階級を持った軍事司法官があり、その参加には、陸軍刑務所や海軍刑務所といった警務施設までを持って、それを担当したのは陸海軍の階級を持つ警務の将校や下士官兵であった。

### 西郷派大東流合気武術総本部

## 大東流靈的食養道HP

幸福をもたらしたはずの飽食の時代 人々が得たものは 一時の快楽と癒えぬ病 そして終わることのない欲の循環 浅ましき食は 猥らな思考と暗愚な生活を 慎ましき食は 気高い思想と明晰な日々を真の健康へと至る道はすぐ側にあり 古の智慧にならない食餌を正しくすることが 人間が人間として道理を取り戻す最良の法であると信ずる。

http://www.daitouryu.com/syokuyou/ 網武出版 093(962)7740

